

昭和町立西条小学校

「仲間とともにたくましく 明日を生き抜く力をもつ子どもの育成」を目指して



ほたるっ子

No.10 令和8年1月20日 文責／古屋正樹



静まりかえっていた学校も
ひとたび子どもたちが来ると
生気に満ちあふれます
子どもたちの持つエネルギーは
計り知れません

466 人が輝く一年に！

新たな年がスタートしました。きっと誰もが夢と希望に満ちあふれた新春を迎えたことでしょう。一昨年は、元日に大きな災害がありましたが、今年は穏やかな正月を迎えられたことと思います。

今年の干支は「午(うま)」です。うま年は「成長」「飛躍」「陽気」「情熱」といった、明るく力強いエネルギーに満ちた縁起のよい年とされています。馬の一直線に駆け抜けるイメージから、「前進」・「飛躍」・「発展」の象徴でもあり、うま年は「挑戦」や「冒険」、「出世」などとも結びつけられています。まさに、次の学年・次の学校という新しいステージへ向かう子どもたちにとって、絶好の年と言えるでしょう。3学期の抱負を語ってくれた学年代表の3名も、しっかりとした目標を持っていてうれしく思いました。私からも子どもたちに「うま年だけに頑張ればきっとうまくいく」と話をしました。1年間のまとめとして、また、次のステージへ向かう準備期間として、充実した時間にしてほしいと願っています。

まとめとなる3学期の授業日数は5年生49日間、1～4年生48日間、6年生に至っては47日間です。1・



2 学期の 75 日前後から考えると、およそ 2 / 3 ととても短い期間になります。このことから学校ではよく使われるテッパンフレーズがあります。

「1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る」

これは、各月の頭文字になぞらえ、月日の早さを表したものです。すでに 1 月が終わろうとしている中、貴重な時間は否応なしに過ぎ去っていきます。時の流れに置いて行かれぬよう、また、感染症等に翻弄されぬよう、毎日、毎時間を大切にしていきたいものです。



お正月の恒例・



新たな年を迎え、元日には各地区で拝賀式や互例会が開催されました。新年を祝うこれらの行事では、一年の幸せや世界の平和などを願った挨拶がいくつも聞かれました。誰もが一年の無事や安泰を願うときでもあります。



各地区では子供たちの活躍の場もあり、新春太鼓が彩を添え、華やかさをまとった厳かな時間となりました。

また、5 日に行われた昭和町新年互例会では、西条小児童会長である依田結愛さんが、今年一年の抱負を堂々と発表しました。中学校へ進学するにあたって学習や部活動のことを、また、小学校を卒業するにあたって仲間との大切な時間のことなど、今の素直な気持ちをしっかりと語ってくれました。新年に相応しい前向きな抱負と立派な態度に、会場から割れんばかりの拍手が起こりました。(追伸：同じく今年の抱負を発表した中学校代表の角野さんも西条小の卒業生でした。(^^))



節分 と 立春



2 月 3 日は「節分」です。「節分」は、「季節」を「分ける」と書き、「季節と季節の分かれ目」を意味します。古くから「節分」の日には、「鬼は外、福は内」と言いながら「福豆」をまき、年の数だけ(または 1 つ多く)食べる厄除けを行います。この「鬼」は病気やケガなど人々を不幸にするものを、また、「福」は幸せを意味しています。1 年間病気やケガをせず、毎日が健康で幸せな日々になるように願って「福豆」をまきます。さらには、玄関に「ヒイラギとイワシの頭」を飾り、鬼を寄せ付けない邪気よけも行います。古くさい話だと思かもしれませんが、日本古来の年中行事として豆まきをしてみても如何でしょうか。



そして、4 日は「立春」、「春立つ日」。「この日から春が始まり、一日一日と暖かくなる」ことを意味しています。時節柄、まだまだ寒い日は続きますが、確実に春へ近づいています。寒い冬の間、土の中で着々と養分を吸収し、春には一回りも二回りも大きな花を咲かせる植物のように、子どもたちのさらなる飛躍を願っています。

